ダイコン新品種『秀太郎』の特性と栽培のポイント

雪印種苗㈱　千葉研究農場　　松　井　誠　二

1　はじめに

秋冬ダイコンは冬の気候が温暖な地域を中心に栽培が行われていますが，その気候を生かして露地の栽培が中心となっています。また，栽培の特徴として他産地よりも密植栽培がなされており，品種に求められる特性も独特なものとなっています。

秋冬ダイコンは一般に12月～3月途中まで出荷されますが，品種は現段階では3つに分けて考えることが妥当です。年内どり，厳寒期どり，寒さが和らぐ2～3月どりに分けることができます。

弊社では，年内どりで「涼太」を普及してまいりましたが，このたび，2～3月どり品種として『秀太郎』（試作系統名ＲＡ115）を新発表しましたので，ご紹介いたします。

表1　『秀太郎』の生育特性

品種名	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (kg)	根形	揃い	肌	ひげ根	青首	す入り	抽苔率 (%)
				……9～1……						
〈平成4年10月3日播種　2月23日調査　千葉研究農場トンネル栽培〉										
秀太郎	36.6	7.7	1.42	7.0	7.5	7.5	7.0	5.0	7.5	0.0
品種A（M社）	34.3	8.1	1.53	7.5	6.5	7.0	7.0	7.0	7.0	22.9
品種O（T社）	36.2	7.4	1.31	6.5	4.5	7.0	6.0	7.5	6.5	0.0

注）評点…根形＝9；総太～1；円錐尻流れ　揃い、肌＝9；極良～1；極不良
ひげ根＝9；極細～1；極太　青首＝9；極濃～1；極淡
す入り＝9；無～1；甚多

表2　『秀太郎』の現地試作結果　（神奈川県横須賀農業改良普及センターの成績より抜すい）

品種名	全重 (g)	出荷重 (g)	葉長 (cm)	根長 (cm)	根径(mm) 首	根径(mm) 中	根径(mm) 尻	す入り指数 首	す入り指数 中	す入り指数 尻
〈平成5年9月27日播種　1月31日調査　三浦市三崎町露地栽培〉										
秀太郎	1,463	1,395	34.1	33.9	71	75	53	0	0	0
青さかり	1,603	1,478	44.8	33.9	71	79	59	5	0	0

注）条間48cm、株間24cm

2　『秀太郎』の特性（表1，2参照）

＝小葉で作りやすく，根が長めに揃う，高品質・やや晩抽性の秋冬ダイコン＝

①　草勢

特徴的な小葉です。小葉の割に耐寒性が強く，半立性の濃緑葉で，ウイルスにも強く，露地向きです。密植適応性が高く，11,500本／10ａが可能です（**写真1**）。

②　根形

根長は低温期でも長めに良く揃い40cm前後と

写真1　小葉で作りやすく，密植適応性が高い『秀太郎』

なり，根径は7 cm，根重は1.5 kgの尻つまりが良いきれいな総太りに仕上がります。

③ 生育

根の太りはやや遅いほうで，寒さが和らぐ2月中旬～3月にかけて肥大が進み，ボリューム感がでてきます。また，吸い込み性なので，根の曲がりも少ないです。

④ 青首

青首はやや淡めなので，栽培期間が長い2～3月どりでも若々しい鮮緑色に仕上がり，青首と根のコントラストが冴えます。また，青肉の心配も少なく，肉部品質も良好です。

⑤ 肌

露地の秋冬系としては，ひげ根が極細く，毛穴も浅いため，調整作業が省力的で，外観も優れます。肌はきめこまやかで白く照りがあり，高品質なタイプです。

⑤ 抽苔

一般の秋冬系品種では2月中旬以降から抽苔の問題がありますが，本品種はやや晩抽性であるため，3月上中旬まで出荷ができることが大きな特徴です。2月下旬～3月上中旬はトンネル春ダイコンとの端境期でもあり，高値を狙った出荷に最適です。

⑦ 食味

す入りは極遅く安定しています。肉色は純白で，肉質は緻密でみずみずしく，やや甘味があります。

3 『秀太郎』の適作型と栽培のポイント

【暖地露地栽培】

9月末～10月上旬播き

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

端境期の出荷を狙った作型です（**写真2**）。

① 栽植密度と播種

条間は42 cm，株間は20 cmを基本にすることができます（密植栽培11,904本／10 a）。

播種はシーダーテープまたはコート播種が一般的ですが，3～4粒／穴播種して下さい。

② 間引き

間引きは草勢の弱い株や毛じが目立つ株を間引き，揃いの良い株を1本立てとします。

写真2　端境期どりで特性を発揮する『秀太郎』

③ 施肥

基肥は前作によりますが，N－P－K＝5－5－5 kg/10 aを目安とします。初期生育が低温乾燥条件になりますし，小葉なので，基肥で肥効を進めて初期生育を確保することが重要で，考え方としては**やや多め**です。

追肥は間引き後にN－P－K－＝6－6－6 kg/10 aを行い，2回目の追肥は年内にN－P－K＝6－6－6 kg/10 aを行い，肥大を進めます。

④ 圃場選定

1～2月が厳寒期になりますので，良品生産に当たっては**沿岸部などの暖かい圃場を選定**することが必要です（**写真3**）。寒さの影響を受けそうな圃場では，その期間にべたがけを有効利用します。

また，排水が悪い圃場では根表面に亀裂や円形褐斑症の発生が見られ，逆に乾燥が激しい圃場では厳寒期の吸肥力が抑えられ，細根に傷みが見ら

写真3　暖地沿岸部での『秀太郎』の栽培

れることもあります。

端境期を狙った作型であり，露地栽培で，しかも生育期間が長いため，**保水性の良い肥沃な土作りが秀品率向上の鍵**と言えます。

⑤　播種期

播種期は品質を大きく左右しますので，現地での適期を知ることが重要です。**三浦半島南部の例では適期は9月27日～10月10日，最適期は10月3～4日**となります。適期より早播きでは根が長くなり過ぎますし，晩播きでは収穫時の抽苔の問題があります。

⑥　病害虫防除

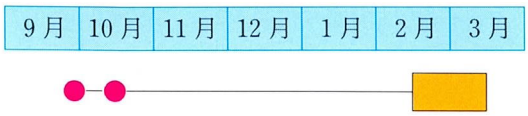
病害防除としては，近年発生が多いといわれる**わっか症の対策**が必要です。初期生育時に雨が多い年に多発し，風通しや排水が悪い圃場でも発生しやすいです。防除は間引き前後から始めることが重要で，デランK，ジマンダイセンを散布します。また，わっか症が引きがねとなって亀裂が生じることもあり，防除を徹底して下さい。

⑦　収穫

太りはやや遅いので尻に肉がついてきたら収穫します。吸い込み性なので抽根長は13cmくらいです。また，3月中旬以降では気温が上がるに従って抽苔が進みますので，3月10日くらいを目途にして遅れずに収穫して下さい。

【暖地トンネルマルチ栽培】

10月上旬播き



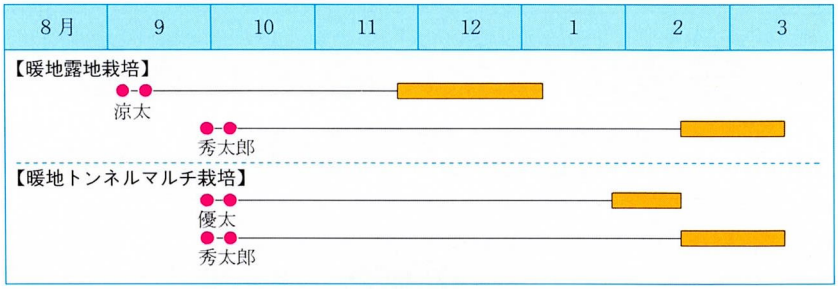


図1　秋～冬系品種の作型別の使い分け

★マルチ張りは降雨後など適湿条件で行い，基肥の肥効を確実にさせます。

★施肥はやや多めとし，N－P－K＝18－25－18 kg/10aを目安とします。

★12月になったらトンネル被覆を行います。裾は開放でよいですが，年内以降の低温乾燥時はやや閉めぎみとし，凍害に注意して下さい。

★**1～2月中旬収穫は太りが早い「優太」をお勧めします。**播種は10月上旬ころがよく，根は39cmくらいにきれいに太く揃います。トンネル栽培では秀太郎より2週間以上早く太ります。

3　むすび

『秀太郎』のご紹介をしましたが，適作型が露地の越冬でもあり，播種期と栽培に十分注意し，良品生産を心掛けて下さい。また，秋～冬系品種のラインナップの使い分けを図1に整理しましたのでご参考ください。

SNOW GROW ACE

●健全な野菜作りに　スノーグローエース

バイオの活力で大きく育つ。栽培・新技術で大きく育てる。